

# 令和三年度滋賀県立米原高等学校特色選抜

## 令三 小論文 問題用紙

注意

- \* 答えは、解答用紙の決められた欄に縦書きで書きなさい。
- \* 文字は楷書、仮名遣いは現代仮名遣いで書きなさい。
- \* 問題用紙、解答用紙はそれぞれ一枚です。
- \* 原稿用紙の正しい使い方にしたがって書きなさい。

受 検 番 号

次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

植物は動かない。この性質を「固着性」と言う。

植物は、自分で栄養を作ることができるから、動物のようにエサを求めて動き回る必要がない。だから、動かないのだ。しかし、ときには「動かない」ではなく、「動けない」ときもある。

動物は敵が来れば逃げるができるが、植物は害虫がやってきても逃げるができない。また、動物は居心地が悪ければ、より適した生息場所を求めて移動することもできるが、植物はそこがどんな場所であっても、移動することはできない。固着性のある植物は、そこに根を下ろしたら、その場所で生きるしかないのだ。

そんな植物の生き方は「変えられるものを変える」ことであると私は思う。「変えられるもの」とは何だろうか。残念ながら、植物に環境を変えるような力はない。そうだとすると変えられるものは「植物自身」である。

そのため、植物はさまざまな変化をする。この変化できる能力を「可塑性」という。植物は自在に変化する。人間は多少の違いはあっても、誰もが同じような形で同じような大きさをしている。これに対して、植物は形も大きさも自由自在である。同じ植物でも大きくなったり、小さかったりするし、縦に伸びたり、横に枝を伸ばしたり、形もさまざまである。そして、環境に合わせて自分を変化させるのである。

「固着性」と「可塑性」が植物の生き方なのだ。

私たち人間は、動物だから自由に動くことができる。しかし、どうだろう。現代社会を生きる私たちは、野生動物のように自由に環境は選べない。動けない不自由さを感じることも多いだろう。

植物は動けないから、逃げることなく環境を受け入れて、自分自身を変えている。そんな植物の生き方は、現代社会を生きる私たちには、参考にすべきところもあるのかも知れない。

(稲垣 栄洋 『植物はなぜ動かないのか』による)

(注) 可塑性⇨変形する性質

問 傍線部について、この植物の生き方を、私たちの生活にどのように活かせるかと考えるか。次の条件①～③にしたがって、三六〇字から四〇〇字以内で書きなさい。

条件

- ① 第一段落には、筆者が述べる「植物の生き方」を書きなさい。
- ② 第二段落以降は、①をふまえて、具体例を用いながら、あなたの考えを書きなさい。
- ③ 原稿用紙の使い方にしたがって書きなさい。